

# 年次報告書 2020



上越教育大学学校教育実践研究センター

## 巻頭言

昨年度のこの巻頭言では、当センターの運営体制が大きく変わる（専任の教員が不在になる）ことで、センターの機能が“低下”したと言われたいようにしたいと結んでいた。そして、今年度はこの目標を達成できた年であったと思う。たしかに、以下の報告内容を一読いただくと、当センターは例年に比して活動数を低下させていることと思う。しかしながら、活動量とそのクオリティーに関していえば、今年度が例年に比べて見劣りしない仕事をしたことがご理解いただけると自負している。

学校教育実践研究センターは、対外的には大学と地域との接点として、教員の実践研究や研修の支援、スノーブレン教育、拉致セミナー、出前講座に携わっている。そして学内に目を向ければ、学びの広場、リメディアル教育、ボランティア関連科目、大学教員の学校現場研修、そして本学の教育実習の実質的な運営をしている。

今年度は、世界中に新型コロナウイルスが蔓延し、当センターの事業も大きな影響を受けた。この点が、当センターの活動数を低下させた要因である。何しろ人を呼べない。人が移動できない。そのような災害下でありながら、当センターが外部との繋がりを維持できたのは、これまで培ってきた遠隔システムの技術と経験、そして信頼関係という財産であったろうと思う。

そしてこの財産は、コロナ禍で危機に瀕していた学内の教育実習をも救うことになった。

例年のごとく、あるいはそれ以上に、これらの事業は、近隣あるいは遠隔地にある教育委員会をはじめ、実習に協力してくださる多くの学校の協力で継続することができた。この場をお借りして厚く御礼申し上げたい。

ところで、今年度は当センターに新たに4人のメンバーが加わった。杉谷、荒木、谷内の3名の特任准教授、そして、細川事務職員である。コロナ禍でささやかな“歓迎会”しか開けなかったのに、重たい重たい学内実習プログラムの立案や、炎天下の屋外草刈作業を命じた体育会系のセンター長がいたことが、みなさんにとっての本当の災害だったかもしれないね。ごめんなさい。

本報告書はコロナ禍にあった令和2年度の学校教育実践研究センターの取組をまとめたものである。

（学校教育実践研究センター長 土田了輔）

# 1. プロジェクト研究

教師力向上セミナー  
スノーズレン教育

学校現場では、日々さまざまな課題に直面し、その対応を求められています。  
学校教育実践研究センターでは、学校職員とともにその解決に関わったり、地域全体の教育の質向上に向けて、様々な実践研究の取組を行っています。

# 教師力向上セミナー

上越教育大学 学校教育実践研究センター 荒川圭子

## 1. はじめに

### (1) 教師力向上セミナーの目的

- ・上越地域の若手教員の教師力向上を目指す。
- ・若手・中堅・ベテラン教員のキャリアアップを図る。
- ・若手教員の学級崩壊や心の病の発生を防ぐ。
- ・研修機会の少ない講師等の学びの場を確保する。
- ・大学の地域貢献活動の一環とする。
- ・上越教育大学の学部・院生や出身者の追指導の場とする。

### (2) これまでの経緯

2019年に自主セミナーの運営と併用しながら、学生・若手・中堅・ベテラン教員がそれぞれのキャリアアップを目指して自主的に参加できる「教師力向上セミナー」を誕生させた。教員のキャリアステージを意識し、採用から5年目までの若手教員を対象とした「若手セミナー」、若手からベテランまで全ての教員を対象とした「キャリアアップセミナー」の2種類である。キャリアアップの中にも若手を含めることにしたのは、講義形式ではなく、若手と中堅教員とが互いに関わり合い学び合う運営方法の改革を目指したからである。その背景には、H29・30・31年度採択された学内プロジェクト「若手研修を軸にした校内での学び体制構築事業」の成果と課題を含めたセミナー内容の検討と、キャリアアップ研修の今後の可能性への期待があったのである。

### (3) セミナーの改善内容

セミナーの研修内容は、新潟県の育成指標との対応を意識して設定した。具体的な研修内容は、学習指導に係る内容が多くなったが、教員が興味をもった教科や領域等を選択して参加できるよう、地域で活動する多様な研修サークルに参加を呼びかけた。本年度は、上越天体研究会と上越国語同好会が新たにセミナーを開講した。

また、新たに大学生や大学院生を研修対象に加えたことは、学生が現職教員から学ぶとともに、現職教員が自分の経験を学生や若手に伝えることで、自分の実践を見直す機会にもなるという点で成果があった。このことは、育成指標に示されたキャリアステージの視点や各段階の内容を意識させると同時に、学生にとっては上越教育大学スタンダードや教育実習ルーブリックの内容を意識する機会ともなったのである。

また、本学を卒業して教員になった人を対象に実施した一昨年度のアンケート調査において、もっと学んでおけばよかったと考える内容に、表計算ソフトやワープロソフトなどの活用が挙がっていた。そこで、学校現場における具体的な活用場面を想定した技能習得を目指すセミナーを新たに開設した。

また、新たに「今の教育」を築いた大先輩の話を聞くレジェンドシリーズを開設した。これは、「故きを温ね新しきを知る」に相応しい教育の歴史を知る中で教育の不易と流行を学ぶ講座となった。

### (4) 地域貢献活動の一環

当セミナーは、上越教育大学学校教育実践研究センターと上越市立教育センターとの共催ではある

が、上越市・妙高市・糸魚川市・柏崎市にも周知している。それは、平成 23 年度戦略的学校支援事業の開始にあたり、当セミナーが地域連携課の事業に位置付けられたことが背景にある。このことよって、年間計画を始め、月毎のセミナー案内を送付し参加者拡大を図ってきた。毎年、大学の評価目標である 100 回以上のセミナー開催を目指し、数多くのセミナー計画を年度末に立て臨んできた。

しかし、コロナの影響で開催が難しくなりスタートが出遅れた。初めてオンライン対応でセミナーを開始することになり、セミナーの在り方が大きく問われる年となった。

## 2. 教師力向上セミナーの実際（キャリアアップセミナー・若手セミナー）

### （1）研修計画（CU…キャリアアップセミナーの略）

回	実施時期	対象・テーマ・内容	研修形態	参加数
1	4月15日	【若手】学級開きから学級じまいまでを経営する戦略	講義	中止
2	5月27日	【若手】小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応① オンライン	講義 ケーススタディ	3
3	6月3日	【若手】学級ルール お悩み相談 オンライン	ワークショップ	4
4	6月10日	【CU】街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星①	講義・観察	6
5	6月17日	【若手】小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応② オンライン	講義 ケーススタディ	3
6	7月1日	【若手】成績処理で生かせるPC技能 Excel	ケーススタディ	4
7	7月29日	【若手・学生】授業づくりセミナー・指導案構想	ワークショップ	33
8	8月3日	【CU】レジェンドに学ぶ① 「生活科・総合的な学習の時間誕生秘話」	講話	28
9	8月4日	【CU】レジェンドに学ぶ②「生活科学習指導のポイント」	講話	34
10	8月5日	【CU】レジェンドに学ぶ③「教育危機を救うメタ研究開発～新学習指導要領の正しい実践～」	講話	38
11	8月19日	【若手】成績処理で生かせるPC技能 Word	ワークショップ	中止
12	8月26日	【CU】授業実践情報交換 国語①	ワークショップ	中止
13	9月2日	【CU】レジェンドに学ぶ④「生活科と書くこと」	講義	中止
14	9月9日	【若手】成績処理で生かせるPC技能 PowerPoint	ワークショップ	0
15	9月16日	【CU】実践道徳授業 小学校対象講座①	講義・演習	11
16	9月23日	【CU】人権教育、同和教育セミナー①	ワークショップ	46
17	9月30日	【CU】人権教育、同和教育セミナー②	ワークショップ	47
18	9月30日	【CU】実践道徳授業 中学校対象講座①	講義・演習	6
19	10月7日	【若手・学生】授業アイデア・事務アイデア 教えます！ オンライン	講義 ケーススタディ	7
20	10月7日	【CU】街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星②	講義・観察	0

21	10月14日	【CU】小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応③	講義 ケーススタディ	6
22	10月14日	【CU】実践道徳授業 小学校対象講座②	講義・演習	5
23	10月21日	【CU】授業実践情報交換 国語②	講話・ワークショップ	12
24	10月28日	【CU】実践道徳授業 中学校対象講座②	講義・演習	5
25	11月11日	【CU】人権教育、同和教育セミナー③ 講演会	講話	68
26	11月18日	【CU】実践道徳授業 小学校対象講座③	講義・演習	5
27	11月25日	【CU】GIGA スクール準備セミナー	ワークショップ	中止
28	12月2日	【CU】情報モラル指導入門講座	講義	中止
29	12月2日	【CU】街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星	講義・観察	中止
30	12月9日	【CU】レジェンドに学ぶ④ 生活科と書くこと	講義	19
31	12月16日	【CU】実践道徳授業 中学校対象講座③	講義・演習	5
			合計	395

## (2) 研修内容

### 第1回 「学級開きから学級仕舞いまでを経営する戦略」【若手】中止

講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二

指導力のある教師、成果を上げる教師の特徴から、学級生活の基盤となる学級経営の充実が重要になってくる。初日に見る指導力の高い教師の戦略と題し、学級づくり戦略シートを示しながら、集団育成の必要条件から学級でのルール作りのポイントを始め、年間を見通した戦略を学ぶ予定であった。

### 第2回 (オンライン講座)「小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応①」【若手】

講師 上越教育大学教職大学院 准教授 関原 真紀

オンライン講座で本年度がスタートした実質1回目となった。通常の学級における発達障害等のある児童生徒への個別の働きかけと、学級全体への働きかけについてなど、特別支援教育の課題について考えていった。

### 第3回 (オンライン講座)「学級ルール お悩み相談」【若手】

講師 上越教育大学教職大学院 教授 清水 雅之

学級づくりのための学習ルール・学級集団づくりの在り方を考えた。より良い学級に向けて、どのように子どもたちに主体性をもたせていくのか、考えを深めていった。

### 第4回 「街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星①」【CU】

講師 上越天文教育研究会 代表 稲葉 浩一 外

学教センターの駐車場で天体望遠鏡、双眼鏡を用いて季節ごとの実天観察を行った。雨天時は天体に関する教材教具を作成する予定だったが、身近なところでの観察で研修を深めていった。

### 第5回 (オンライン講座)「小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応②」【CU】

講師 上越教育大学教職大学院 准教授 関原 真紀

同内容の2回目の講座だが、ニーズの高さから対象をキャリアアップセミナーとし対象を広げた。通常の学級における多様な子どもたちへの学習指導について、学校現場で今できそうな取組を紹介した。通級指導教室や特別支援学級と通常の学級の効果的な連携の在り方についても考えていった。

## **第6回 「成績処理で生かせるPC技能 Excel」【若手】**

講師 上越教育大学教職大学院 特任教授 石野 正彦 外

今年初めて登場した講座である。教員の仕事はPCに向かう時間が長くなっており、今さら聞けないと思っている職員向けのPC技能向上を目指しシリーズ化した。成績処理で便利なExcelだが、参加者の実態に合わせてExcelで何をやりたいのか、何ができるようになりたいのかを確認しながら、その場で解決していった。

## **第7回 「授業づくりセミナー・指導案構想」【若手セミナー・学生】**

講師 上越教育大学学校教育実践研究センター 特任准教授 谷内 卓生

2学期に研究授業を控えている先生方、教育実習を控えた学生を意識しスタートした指導案づくりセミナー2年目である。前半は、授業づくりや指導案づくりの基本的な考え方を講義形式で行った。後半は、国語のいくつかの教材を使って実際に指導案を作っていた。

## **第8回 レジェンドに学ぶ①「生活科・総合的な学習の時間誕生秘話」【CU】**

講師 元上越教育大学教授 小林 毅夫

今年は松井千鶴子研究室の協力を得て、大先輩をセミナーの講師にお招きする「レジェンドに学ぶ」シリーズが実現した。その第1弾は、大手町小学校長、新潟県教育庁義務教育課長、上越市教育委員会教育長として、上越をはじめ全国の教育界を牽引してこられた小林毅夫先生である。昭和50年代の附属小学校における総合単元活動、総合教科活動を始めとする実践から、生活科・総合的な学習の時間につながる誕生秘話を中心に貴重なお話をいただいた。

## **第9回 レジェンドに学ぶ②「生活科学習指導のポイント」【CU】**

講師 上越教育大学非常勤講師 上原 進

「レジェンドに学ぶ」第2弾は、昨年度好評だった上原先生に再度登場をお願いした。今回は、昨年の講座内容にない上越の視点から生活科を見つめる新しい内容が加わった。生活科の原点を聞くことができた講座内容であった。

## **第10回レジェンドに学ぶ③「教育危機を救うメタ研究開発～新学習指導要領の正しい実践～【CU】**

講師 元上越市立高志小学校長 長野 克水

「レジェンドに学ぶ」第3弾は、附属小学校で、総合単元活動、総合教科活動、心の活動、集団活動による「2・3・4教育活動による教育課程」の開発に携わってこられた長野克水先生をお迎えした。新学習指導要領が誕生の背景に、附属幼・小、高志小学校の3校園で開発された「喜んで登校し、生き生きと学ぶ子ども」の実践があることが分かった。上越教育事務所長、高志小学校長を歴任され、研究アプローチを独自の理論で実践された貴重なお話を聞きすることができた。

## **第11回 「成績処理で生かせるPC技能 Word」【若手】 中止**

講師 上越教育大学教職大学院 特任教授 石野 正彦 外

成績処理に生かせるPC技能第2弾はWord編である。使用頻度の高いWordだが、お便り作成の写真挿入を始め、図の活用など、参加者の皆さんがWordで何をやりたいのか、何ができるようになりたいのかを確認しながら、Excel同様その場で解決していく予定であった。

## **第12回 「授業実践情報交換 国語」【CU】 中止**

提案 上越教育大学附属中学校 国語科

上越地域の教育サークルにお声がけしたところ、上越国語同好会の皆様による講座開催の運びとなった。前半は、上越教育大学附属中学校の国語科の先生方から、秋の研究会用の授業提案をしていただき、最新情報をお聞きしながら授業づくりの研修の機会とする予定だった。後半は、説明文の指導法を始め、長文の読みにかかる個人差対策など、日頃のお悩み相談の予定だった。

### 第13回 レジェンドに学ぶ④「生活科と書くこと」【CU】 中止

講師 上越教育大学非常勤講師 上原 進

「レジェンドに学ぶ」第4弾は上原先生の2回目であり、体験と表現の相互作用で確かな学びが生まれる実践例を聞きながら、生活科のもつ「書くこと」の重要性を再認識する講義内容であった。

### 第14回 「授業に生かせるP C技能 PowerPoint」【若手】

講師 上越教育大学教職大学院 特任教授 石野 正彦 外

文書作成で生かせるWordに続き、プレゼン以外にも使い道の広いPowerPointの技能習得を目指す予定だったが、残念ながら参加者がいなかった。

### 第15回 「実践道徳授業 小学校対象講座①」【CU】

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 小宮 健

小学校の教科書教材を使った道徳科の模擬授業を3回に渡って行うシリーズとした。(今回：低学年)「教科書教材を使って考え議論する道徳をどのように行うか」という課題をテーマの模擬授業を交えながら、道徳授業の意義や面白さを伝え合った。

### 第16回 9月23日 人権教育、同和教育自主セミナー① 【CU】

テーマ：報告「『かかわる同和教育』の実践を通じて」

[発表] 実践1 教諭 長澤 虎幸 (上越市立浦川原小学校)

実践2 教諭 山田 克彦 (上越市立頸城中学校)

### 第17回 9月30日 人権教育、同和教育自主セミナー② 【CU】

テーマ：講義「同和教育の基礎と意義～『生きる』を用いた授業実践を通じて～」

[講師] 教諭 林 誠仁 (上越市立柿崎小学校)

### 第18回 9月30日「実践道徳授業 中学校対象講座①」【CU】

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 田村 博久

中学校道徳科の模擬授業を3回に渡って、異なる教材を使い「問題解決的な授業スタイル」で実施することとした。体験いただいた模擬授業の具体的な場を通じて、授業者が大切に踏まえる必要のある子どもたちの「主体的」「対話的」「深い」学びの姿を明らかにし、今後に向けた道徳授業の進め方を協議した。

### 第19回 (オンライン講座)「授業アイデア・事務アイデア 教えます！」【若手・学生】

講師 上越教育大学教職大学院 教授 中野 博幸

学校現場にもICT活用が増えているが、アナログとデジタルの両方の良さを活かしながら教育活動に関わることが大切である。学習プリント・教材作成や成績処理、週案や通知表・指導要録等への記入などの学級事務、学校行事や校務分掌の文書作成等について、いろいろな具体例をもとに情報交換を行った。

### 第20回 「街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星2」【CU】

講師 上越天文教育研究会 稲葉 浩一 外

木星と土星、大接近中の火星の観察を始め、見頃の夏の大三角形や秋の四辺形、アンドロメダ大星雲の実天観察に臨む予定だったが、残念ながら参加者はいなかった。

### 第21回 「小・中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応③」【CU】

講師 上越教育大学教職大学院 准教授 関原 真紀

3回目は、通常の学級における多様な子どもたちへの学習指導について、対面でセミナーを行うことができた。参加者から、学力差に応じた指導について、意識していることや実践していることを聞



きながら、個々の解決策を検討した。

### **第22回 「実践道徳授業 小学校対象講座②」【CU】**

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 小宮 健

「教科書教材を使って考え議論する道徳をどのように行うか」をテーマに、今回は中学年の小学校教科書教材を使った道徳科の模擬授業を行い、道徳授業の意義や面白さを伝え合った。

### **第23回 「授業実践情報交換 国語②」【CU】**

実践発表 ①上越教育大学附属小学校 教諭 倉又圭佑

②上越教育大学附属小学校 教諭 笠井 悠

上越国語同好会の皆様による2回目の講座は、附属小学校の最新の実践発表を中心とした。実践報告後、小中の実践交流の貴重な機会となった。

### **第24回 「実践道徳授業 中学校対象講座②」【CU】**

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 田村 博久

2回目も同様に、異なる教材を用いた中学校道徳科の模擬授業を通して、「問題解決的な授業スタイル」を体験していった。模擬授業の具体的な場を通じて、授業者が大切にすべき子どもたちの「主体的」「対話的」「深い」学びの姿を明らかにし、今後に向けた道徳授業の進め方を協議した。

### **第25回 人権教育、同和教育自主セミナー 講演会**

「今 全ての人が差別を身近に感じて～あなたはどの立場に立っていますか?～」【CU】

講師 徳島県人権エンタメ集団『友輝』 中倉 茂樹

### **第26回 11月18日「実践道徳授業 小学校対象講座③」【CU】**

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 小宮 健

今回は高学年の小学校教科書教材を使った道徳科の模擬授業を行った。参加者のニーズに合わせて、個別対応としての課題をテーマの模擬授業を交えながら、道徳授業の意義や面白さを伝え合った。

### **第27回 11月25日 GIGAスクール準備セミナー【CU】中止**

講師 上越情報教育研究会（JCOM）の皆様

当初5年計画だった「GIGAスクール構想」が令和2年度補正予算により加速され、児童生徒1人1台端末や学校ネットワーク環境が、多くの自治体で本年度中に整備されることになった。1人1台端末の環境が整う前に、どのように準備を進めていくか、不安改善を意識したセミナー予定であった。

### **第28回 12月2日 情報モラル指導入門講座【CU】中止**

講師 学校教育実践研究センター 特任准教授 島津 弘次

子どもたちがLINE、Twitter、InstagramなどのSNSを通して、人権侵害の被害者や加害者になってしまう事案が増えてきている今、情報モラルの指導に関わる入門講座を新たに用意した。情報モラルの指導をしたことがない、抵抗感や苦手意識を持っている方と一緒に学び合う予定であった。世の中を騒がせた事件やネットいじめの事案を紹介したり、参加者の抱えている悩みや不安を聞いたりする展開を用意した。

### **第29回 12月2日 街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星3【CU】中止**

講師 上越天文教育研究会 稲葉 浩一 外

中学校3年生理科「天文」の学習が進んでいる時期を考慮し設定した。内容は、大接近中で明るい「火星」を観察したり、冬のオリオン座の三ツ星や大星雲を双眼鏡や望遠鏡で捉えたり、西の空低くに立ち上がる北十字（はくちょう座の一部）などを観察する予定であった。

**第30回 12月9日 レジェンドに学ぶ④「生活科と書くこと」【CU】**

講師 上越教育大学非常勤講師 上原 進

9月2日に中止になった内容を改めて行った。体験と表現の相互作用で確かな学びが生まれる生活科の中で、「書くこと」に焦点をあて生活科を見直した。具体的な「書くこと」を充実させるための指導や手立てのポイントをお聞きし、「書くこと」の指導技術を再確認した。

**第31回 12月16日「実践道徳授業 中学校対象講座③」【CU】**

講師 上廣道徳教育アカデミー 特任教授 田村 博久

3回目も同様に、異なる教材を用いた中学校道徳科の模擬授業を通して、「問題解決的な授業スタイル」を体験した。

### 3. まとめ

3月、新型コロナウイルスの影響で立てたばかりの研修計画の変更を余儀なくされた。それからというもの急遽研修の在り方そのものの検討から始めた。そこで、オンラインによるセミナー開始を試みようとして早速4月の対応を開始した。実施予定者からのオンライン対応についての回答結果をもって、令和2年度は31講座開講として計画を立て直した。

実際、オンラインセミナーは31講座中4講座、人数制限を考慮し2会場に分け遠隔機能を用いた講座が1回、新型コロナウイルス感染拡大防止のための上越教育大学活動制限指針のレベルから中止になった講座が7講座、他は対面可となり新型コロナウイルス感染拡大対策のもと行った。結局開催数は、31講座中24講座、内2回は参加者がなく開催できなかったが、22講座を実施し延べ参加者数は395名となった。1セミナーの参加者平均は昨年より1名増の16名である。昨今の働き方改革やコロナ禍の影響を受ける中で、昨年並みの平均参加者数となったことは、セミナーの開催意義が学校現場や学生に認知されている証拠であろう。

毎回セミナー終了後に、参加者にアンケートの協力を求めてきた。昨年度の回答率より10ポイント低くなったが、395人中321名、81.3%の回答を得た。オンライン参加者のアンケート回収ができなかったことが影響していると思われる。参加者の所属内訳は、小学校教職員をトップに以下の表1の通りである。学部生、ストレート院生の増加が見られ、所期の目的を達成することができたと考える。

表1【アンケート回答者の所属別人数】

参加者所属	小学校教職員	中学校教職員	学部生	院生ストレート	院生現職教員	その他
人数	203名	16名	21名	38名	22名	21名

表2の年代別に参加者を見ると、キャリアアップ研修としたため、幅広い年齢層の参加が見られた。一番多く参加した20代114名は36%を占め、若手を意識したセミナー内容の効果と考えられる。40代88名は全体の27%、50代81名は全体の25%となり、40代50代の合計が52%と半数を占めた。昨年は、経験年数別での質問だったので直接比較はできないが、昨年度教職20年以上の参加者が16%だったことを考えると、今年は経験年数の長い年代から多くの参加者を得たと推察できる。増加理由として、選択肢の増加やレジェンドシリーズの魅力が研修意欲に結び付いたと考えられる。

表2【アンケート回答者の年代別人数】

参加者年代	20代	30代	40代	50代	その他
人数	114名	35名	88名	81名	3名

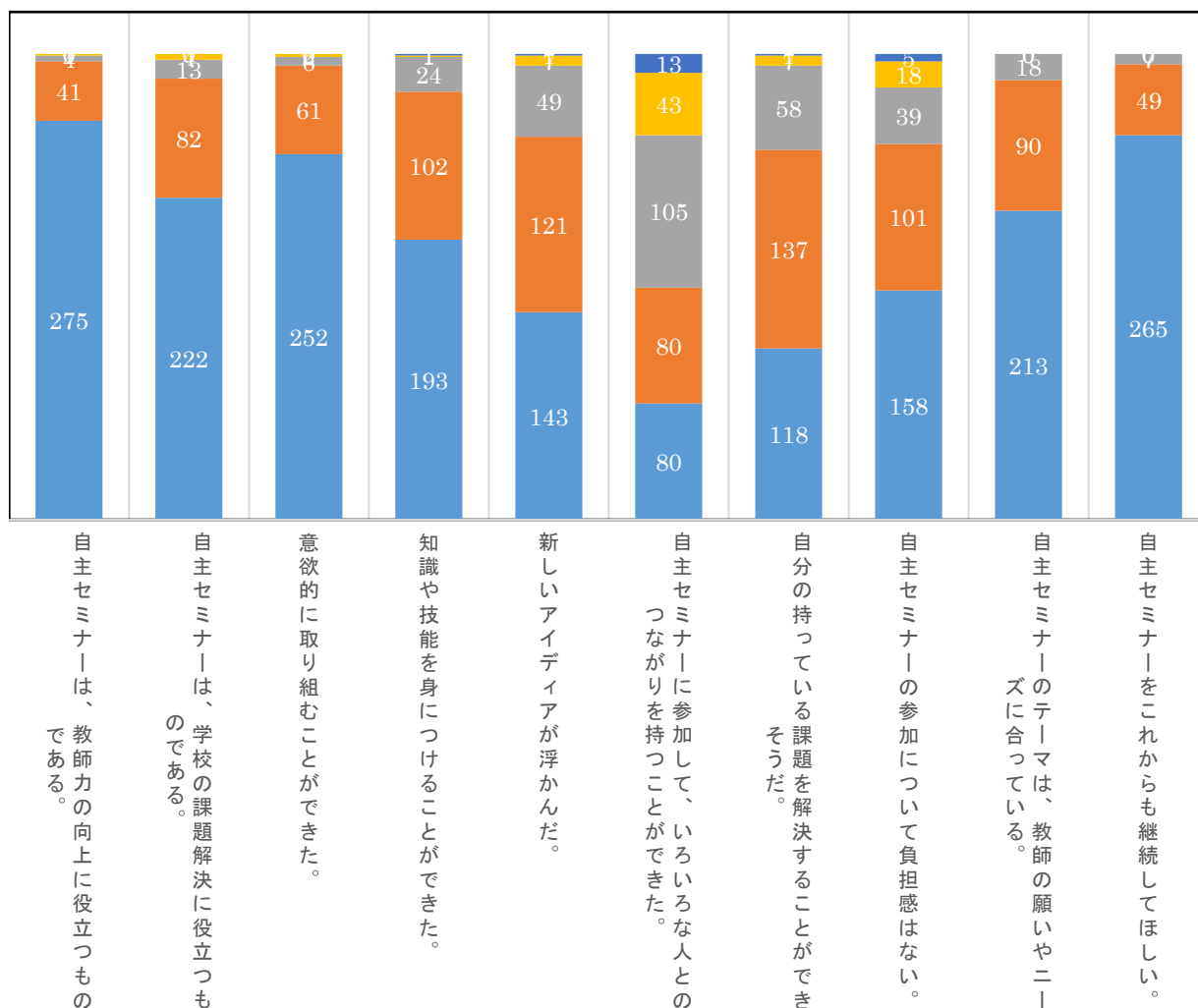
10項目に渡るアンケートの内、「1 そう思う・2 だいたいそう思う」の割合が90%以上であった項目は6項目に及び、肯定的な回答が大半であった。「①セミナーは教師力向上に役立つものである」98.4%、「④知識や技能を身につけることができた」91.9%、「⑨セミナーのテーマは、教師の願いやニーズに合っている」94.3%であったことから、自分の課題解決に向けて、セミナーに自主的に取り組み、学びの深まりや喜びを味わったことが伺える。参加者の自由記述による感想等は、この項の最後に列記するので参照されたい。

表3 【教師力向上セミナー アンケート結果集計】 (321名回答)

	質問項目	そう思	あまりそう	どちらで	だいたい	そう思
		わない	思わない	もない	そう思う	う
1	セミナーは、教師力の向上に役立つものである。	0	1	4	41	275
2	セミナーは、学校の課題解決に役立つものである。	0	4	13	82	222
3	意欲的に取り組むことができた。	0	2	6	61	252
4	知識や技能を身につけることができた。	1	1	24	102	193
5	新しいアイデアが浮かんだ。	1	7	49	121	143
6	セミナーに参加して、いろいろな人とのつながりを持つことができた。	13	43	105	80	80
7	自分の持っている課題を解決することができそうだ。	1	7	58	137	118
8	セミナーの参加について負担感はない。	5	18	39	101	158
9	セミナーのテーマは、教師の願いやニーズに合っている。	0	0	18	90	213
10	セミナーをこれからも継続してほしい。	0	0	7	49	265

## 教師力向上セミナー実施アンケート結果

■そう思う ■だいたいそう思う ■どちらでもない ■あまりそう思わない ■そう思わない



## 教師力向上セミナーアンケート自由記述より

### ○小中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応（2回実施）

- ・実践的な内容で大変参考になりました。
- ・それぞれの学校現場で起こっているリアルな課題について、自分自身で考えながら、他校の取り組みやアドバイスをお聞きできたのが学びになった。

### ○学級ルールお悩み相談

- ・学校内だと相談するのに気を使ってしまうのですが、学校外の皆さんとお話できたことで、日頃の疑問をスッキリさせられたと感じました。少人数だったこともよかったなと思っています。

### ○成績処理で生かせる PC 技能 Excel

- ・テストの点数、成績の付け方、実際にやりながら、使っている場面を想像しながら行えました。
- ・ついていけるか不安でしたが、現場で使える技をたくさん教えてもらったので、今日の事を思い出しながら、活用していけるようになりたいです。

### ○授業づくり指導案構想

- ・指導案づくりで不安が多くありましたが、自分の課題やめざしたい理想の授業像を今回のセミナーで明確に出来ました。
- ・指導案を書く上でのコツやポイントを知ることが出来ました。分かりやすいアクティブな講習会でした。
- ・図画工作、音楽系の授業について取りあげてほしいです。今までの授業では、先生がある程度技術を持ち、音楽（ピアノ）や図工を見てきたので、そういった技術がない人でも良い授業が作れるのかを知りたいです。

### ○レジェンドに学ぶシリーズ（4回実施）

- ・エネルギーあふれる講演に元気と活力をもらいました。学び続ける教師でなければならないと改めて思っています。2学期からの構想を見直し修正するポイントをいただきました。問い直し見直ししていきます。
- ・子どもの姿から教師の今あるべき授業を考えていく先生の実践が素敵だなと思いました。蓄積や反省、内省することが普段は怠けてしまいがちです。先生のように子どもの姿から確実に学び、実践し、蓄積していけるようになりたいです。
- ・レジェンドシリーズを続けてほしいです。

### ○実践道徳授業（小・中学校対象各3回実施）

- ・とても勉強になりました。実際の授業を体験できると、授業のイメージがわくので、分かりやすく参考になりました。今後の道徳授業づくりに参考にしていきたいです。

- ・道徳が教科化になったけれど、他教科との区別がなく、教えること＝価値の押し付けから抜け出せないこと
- ・小規模の学校でも他者に関心を持たない、持てない子どもがいます。子どもが考える「良い学級の定義」「より良い学級とは」を自分事として真剣に考えないまま過ごしている学級、学校がある。

#### ○街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星

- ・非常にわかりやすいお話、ありがとうございました。星座について苦手意識があったのですが、星座早見盤で観察してみたくくなりました。

#### ○授業実践情報交換国語

- ・単元、授業、いろいろな観点から自由に質問や意見が言える上越国語同好会のよさを改めて感じました。
- ・国語科の教材研究など、実践的な発表を期待しています。

#### ○人権教育、同和教育セミナー(全3回実施)

- ・すべての教育活動に通じると感じました。発表があるから、レポートがあるから、実践するという形でなく(きっかけにはなるかもしれませんが)、日常の活動の中でもっと丁寧にすべきこと、教員としてやるべきことに向き合うことが大切だと思います。
- ・感染症対策をきめ細かにやっていただきありがとうございました。Zoom(オンライン)の視聴も経験出来てよい研修となりました。

## 上越市に広がるスヌーズレンの輪

上越教育大学 学校教育実践研究センター 渡辺径子

上越教育大学学校教育実践研究センター（学教センター）では、平成28年度からスヌーズレンを地域の教育機関や社会福祉施設等に紹介しはじめ、実際のスヌーズレンルームも広く一般に公開している。

学教センターのスヌーズレンルームは、防音や遮光の設備が整った約80㎡のスタジオに常設している。広い室内を「ホワイトルーム」「ブラックルーム」「アクティビティルーム」の3つに仕切り、利用者がその日その時の心地よい空間や道具を選択できるようにしている。

### ① ホワイトルーム

ホワイトルームは白い不織布で全面を覆い、低反発のカーペット、ビーズクッション、アクパイプ、鏡、波プロジェクター、アロマフューザー、電飾、CD等を備えている。

### ② ブラックルーム

ブラックルームは三笠産業株式会社と提携し、天井の蛍光灯6本をブラックライトに替え、蛍光印刷物と蛍光グッズ等、また3Dメガネも使用できるようにしている。

### ③ アクティビティルーム

アクティビティルームでは、小型のテントの中にフカフカなマットを敷き、利用者の好みのグッズを自由に持ち込んで楽しめるようにしている。

主な利用者は、近隣地域の小学校特別支援学級の子どもたちや、社会福祉施設等でのデイケアに通っている方々、子ども発達支援センターに通う親子、教員免許更新講習で学教センターを訪れた教育関係者、その他の学教センターの研修会やイベント等に訪れた教育関係者や地域住民である。

学教センターでの体験は、そのほとんどがリラクゼーションやレジャーとしてのスヌーズレンである。スヌーズレン体験を終えた人たちからは「癒された」「気持ちよかった」「元気が出た」「また来たい」との声が聞こえてくる。最近では、スヌーズレン空間の中で、ハンドトリートメントを取り入れ、利用者と介助者の新しいコミュニケーションツールの一つにしている。肢体不自由の子どもの強張っていた手が、スヌーズレン空間でハンドトリートメントをしながらコミュニケーションをとる介助者の手の中で温かく柔らかくなっていく実際に驚かされる。介助者の存在の価値を改めて実感するエピソードである。

学教センターでスヌーズレンを体験し、スヌーズレンを自身の施設でも展開したいという動きが出てきた。この後に記述される「上越市立大町小学校」、「社会福祉法人上越福祉会かなやの里ほほえみ」の他にも、「社会福祉法人さくら園南さくら工房」、「宿泊体験施設 月影の郷」「特定非営利活動法人

ギフト」等である。どの施設もスヌーズレン空間を整える上での施設設備（場の確保、遮音、遮光、空調等）や道具の購入（備品、消耗品等）について困難な状況があった。それら困難を、利用者のためにスヌーズレンをつくりたい、利用者に喜んでもらいたいという熱い思いをもとに、お互いに知恵を出し合い、工夫を重ねながら創作し、利活用に臨んでいる。

一方で、スヌーズレンを「リラクゼーション」や「レジャー」としてだけではなく、「教育」にも展開させたいとする日本スヌーズレン総合研究所（所長：姉崎弘氏）の動きがある。利用者はスヌーズレン空間に入ると自らの意思を働かせてみようとしたり、触ろうとしたりする能動的・主体的な行動をとる。「自ら何かしたくなる主体性を引き出す営みこそ教育の原点であろう」というのである。その点に筆者も共感しスヌーズレンの活動を進めているところである。

先述した当センターのスヌーズレンルームを度々訪れていた上越市立大町小学校特別支援学級（担任：梅澤教諭）では、このスヌーズレンを学びの道具として活用を始めているところである。大町小学校では1室をスヌーズレンルームにし、ルームに置くグッズを児童らが作成したり、ルームの道具等の配置や仕立て方を児童と教員とが相談しながら行ったりと、スヌーズレンを学習材として活用しているのである。またルームを、全校の児童にも開放し、その運営の仕方等を特別支援学級の中で児童と教員とで相談しながら行っている。スヌーズレン空間の中でもたらされる直接的な学習効果とは違うが、ルームを訪れる人の、喜んだり驚いたりする顔を思い描きながらルームを整えることが、特別支援学級の児童や教員の「やりがい」「自己肯定感」を導き出す取組になっている。

リラクゼーションやレジャーにしても教育にしても、現在の精神的に脆くなってしまいがちなこのコロナ禍の状況の中、心地よい空間を自分たちでつくっていかこうとする人たちがこの地域に少なからずいてくれることがうれしく感じる。

今後もスヌーズレンの活動の紹介を続けることによって、地域に更なるスヌーズレンの輪を広げていきたい。

大町小学校の  
スヌーズレンルーム





## 2. 教育実践研究発表会

---

学校教育に関する理論的・実践的知識を集積し、それを活用できるようにすることで、学校教育全般の質の向上に資することを目的として、当センターに編集委員会を設け、毎年「教育実践研究」を発刊しています。本年度、「教育実践研究 第31集」掲載論文の募集を行い、153の応募があり、審査の結果、48編の掲載を決定し刊行しました。

また、令和元年度に刊行した論文集「教育実践研究 第30集」に掲載した研究成果を、より多くの学校現場の先生に共有していただくため、論文執筆者による「第18回教育実践研究発表会」を令和2年8月4日（火）に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスのため、今年度は中止となりました。「教育実践研究」の掲載論文は、次のサイトで閲覧できます。

<http://www.educ.juen.ac.jp/library/>

越教大実第 6 号  
令和 2 年 4 月 9 日

(所属長) 様

国立大学法人上越教育大学  
学校教育実践研究センター長  
土 田 了 輔

### 第 18 回上越教育大学教育実践研究発表会における発表について (依頼)

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

「教育実践研究」第 30 集の論文発刊の際には、貴所属 (執筆者名) 様に執筆をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、当センターでは、優れた教育実践研究を広く教育現場に還元するという趣旨から、「教育実践研究」第 30 集に執筆いただいた論文の発表会を下記により開催する予定としています。

昨年度の発表会においても、県内より多くの先生方から御参加をいただき、熱心な発表と討議が行われ、大変好評をいただいたところです。

つきましては、当発表会に貴所属 (執筆者名) 様からも発表いただきたく、御派遣くださるようお願い申し上げます。

なお、御承諾の可否につきましては、お手数ですが別紙により、5 月 28 日 (木) までに御回答くださるよう併せてお願い申し上げます。

#### 記

- |       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 1 日 時 | 令和 2 年 8 月 4 日 (火) 10:00～17:00       |
| 2 会 場 | 上越教育大学学校教育実践研究センター<br>(上越市西城町 1-7-2) |

#### 【担当】

国立大学法人上越教育大学  
学校実習課 大森

電 話 : 025-521-3276

E-mail : [gakkoren@juen.ac.jp](mailto:gakkoren@juen.ac.jp)

越教大実第 19 号  
令和 2 年 5 月 28 日

所属長 様

国立大学法人上越教育大学  
学校教育実践研究センター長  
土 田 了 輔

### 第 18 回上越教育大学教育実践研究発表会について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

「教育実践研究」第 30 集の論文発刊に際しては、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、令和 2 年 4 月 9 日付け越教大実第 6 号で、第 18 回上越教育大学教育実践研究発表会における発表について、ご執筆をいただいた貴所属の〇〇 〇〇 様にご依頼させていただきましたが、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、令和 2 年 8 月 4 日（火）に予定しておりました同発表会の開催を中止することにいたしました。

ご参加をご検討いただいていた皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

#### 【担当】

国立大学法人上越教育大学  
学校実習課 大森

電 話：025-521-3276

E-mail：gakkoren@juen.ac.jp

### 3. 学校及び地域社会との連携・支援 1

教職員のための自主セミナー

**\* 水曜自主セミナー**

学校の教育課題に応じたテーマで設定し、地域の教員や大学院生を対象とするセミナー

**\* 教師力向上セミナー**

- ・若手セミナー【若手】 採用から5年目までの若手教員の教師力向上を目指すセミナー
- ・キャリアアップセミナー【CU】 新潟県の教員育成指標をもとに、それぞれのキャリアステージに必要なテーマを設定して、若手・中堅・ベテラン教員が相互に関わって、それぞれのキャリアアップを図るセミナー

開催時間；18時30分～20時 受講費無料

## ■ 1. 自主セミナー・教師力向上セミナー実施一覧

5月13日

With コロナ時代の学校教育①（オンライン）

上越教育大学大学院生 菊池 徹

5月20日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会①（オンライン）

上越教育大学 大場 浩正（WBM 認定講師）

5月27日

iPad を活用した授業を考えよう！①（オンライン）

上越教育大学大学院生 伊藤 創

5月27日

教師力向上セミナー1【若手】

「小・中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応①」（オンライン）

上越教育大学 関原 真紀

5月27日

英語教育 café①（オンライン）

上越教育大学 大場 浩正

6月3日

教師力向上セミナー2【若手】「学級ルール お悩み相談」（オンライン）

上越教育大学 清水 雅之

6月10日

教師力向上セミナー3【CU】「街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星①」

上越天文教育研究会 稲葉 浩一

6月10日

With コロナ時代の学校教育②（オンライン）

上越教育大学大学院生 菊池 徹

6月17日

小・中・特別支援学校における食育の研究①（オンライン）

上越市立南本町小学校 岡田 小野江

上越市立春日新田小学校 那須 博資

6月17日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会②（オンライン）

上越教育大学 大場 浩正（WBM 認定講師）

6月17日

これからの保育と幼小接続を考えるセミナー①（オンライン）

上越教育大学 山口 美和

長谷川敬子

6月17日

教師力向上セミナー4【若手】

「小・中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応②」(オンライン)

上越教育大学 関原 真紀

6月24日

英語教育 café② (オンライン)

上越教育大学 大場 浩正

6月24日

教育サークル Sky—High! ①

県立上越特別支援学校 野田 晴高

6月24日

夕暮れの自然観察講座①

上越教育大学 五百川 裕

6月24日

書写指導セミナー①「初めて毛筆を使う子どもたちへの書写指導」

上越教育大学 荒川 圭子

7月1日

教師力向上セミナー5【若手】「成績処理で生かせるPC技能 Excel」

上越教育大学 石野 正彦

7月8日

With コロナ時代の学校教育③ (オンライン)

上越教育大学大学院生 菊池 徹

7月8日

スマホ・ネットの長時間接触による健康被害の実際と対策

ネット健康問題啓発者全国連絡協議会 ウッド 一美

上越教育大学 土田 了輔

7月8日

教育サークル Sky—High! ②

県立上越特別支援学校 野田 晴高

7月15日

これからの保育と幼小接続を考えるセミナー②

上越教育大学 長谷川 敬子

7月15日

小・中・特別支援学校における食育の研究②

上越市立南本町小学校 岡田小野江  
上越市立春日新田小学校 那須 博資

7月15日

教育サークル Sky—High! ③

県立上越特別支援学校 野田 晴高

7月22日

夕暮れの自然観察講座②

上越教育大学 五百川 裕

7月22日

教育サークル Sky—High ! ④

県立上越特別支援学校 野田 晴高

7月22日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会③

上越教育大学 大場 浩正 (WBM 認定講師)

7月29日

英語教育 café③

上越教育大学 大場 浩正

7月29日

教師力向上セミナー6【若手】「授業づくりセミナー・指導案構想」

上越教育大学 谷内 卓生

8月3日

教師力向上セミナー7【CU】

「レジェンドに学ぶ①～生活科・総合的な学習の時間誕生秘話～」

元上越教育大学 小林 毅夫

8月4日

教師力向上セミナー8【CU】「レジェンドに学ぶ②～生活科学習指導のポイント～」

上越教育大学 上原 進

8月5日

教師力向上セミナー9【CU】「レジェンドに学ぶ③～教育危機を救うメタ研究開発～」

元上越市立高志小学校長 長野 克水

9月6日

研究プロジェクト成果発表会「多職種連携による学び合いの場創りの意義①」

上越教育大学 藤井 和子

9月9日

iPad を活用した授業を考えよう！②

上越教育大学大学院生 伊藤 創

9月9日

教育サークル Sky—High ! ⑤

県立上越特別支援学校 野田 晴高

9月9日

教師力向上セミナー10【若手】「成績処理、授業で活かせる PC 技能 PowerPoint」

上越教育大学 石野 正彦

9月16日

教師力向上セミナー11【CU】「実践道徳授業 小学校対象①」

上廣道徳教育アカデミー 小宮 健

9月16日

これからの保育と幼小接続を考えるセミナー③

上越教育大学 山口 美和

長谷川 敬子

9月23日

教育サークル Sky—High! ⑥

県立上越特別支援学校 野田 晴高

9月23日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会④

上越教育大学 大場 浩正 (WBM 認定講師)

9月23日

研究プロジェクト成果発表会

「附属小学校と連携した特別な教育的ニーズのある子の学習支援プログラムの開発」

上越教育大学 池田 吉史

9月23日

夕暮れの自然観察講座③

上越教育大学 五百川 裕

9月23日

教師力向上セミナー12【CU】「人権教育、同和教育セミナー①」

上越地区同和教育研究協議会

9月30日

教師力向上セミナー13【CU】「人権教育、同和教育セミナー②」

上越地区同和教育研究協議会

9月30日

小・中・特別支援学校における食育の実践と評価①

上越教育大学 野口 孝則 外

9月30日

教師力向上セミナー14【CU】「実践道徳授業 中学校対象①」

上廣道徳教育アカデミー 田村 博久

9月30日

研究プロジェクト成果発表会「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援」

上越教育大学 大庭 重治

10月7日

教師力向上セミナー15【若手】「授業アイデア・事務アイデア教えます！」(オンライン)

上越教育大学 中野 博幸

10月7日

教師力向上セミナー16【CU】「街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星②」

上越天文教育研究会 稲葉 浩一

10月7日

教育評価の基礎・基本①

上越教育大学 岡田 広示

10月7日

With コロナ時代の学校教育④(オンライン)

上越教育大学大学院生 菊池 徹

10月7日

iPad を活用した授業を考えよう! ③

上越教育大学大学院生 伊藤 創



10月14日

これからの保育と幼小接続を考えるセミナー④ 森のようちえんてくてく理事長 小菅 江美

10月14日

教育サークル Sky-High! ⑦ 県立上越特別支援学校 野田 晴高

10月14日

教師力向上セミナー17【CU】「小・中学校における発達障害等のある児童生徒の理解と対応③」

上越教育大学 関原 真紀

10月14日

教師力向上セミナー18【CU】「実践道徳授業 小学校対象②」 上廣道徳教育アカデミー 小宮 健

10月14日

教育評価の基礎・基本② 上越教育大学 岡田 広示

10月21日

教師力向上セミナー19【CU】「授業実践情報交換国語(上越国語教育学習会)」 上越国語教育同好会

10月21日

小・中・特別支援学校における食育の実践と評価② 上越教育大学 野口 孝則 外

10月21日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑤ 上越教育大学 大場 浩正(WBM 認定講師)

10月21日

研究プロジェクト成果発表会「幼稚園における子育て支援の研究」 上越教育大学附属幼稚園研究部

10月28日

児童虐待防止に向けた学校の役割とは① 上越教育大学 高田 俊輔

10月28日

教師力向上セミナー20【CU】「実践道徳授業 中学校対象②」 上廣道徳教育アカデミー 田村博久

10月28日

教育サークル Sky-High! ⑧ 県立上越特別支援学校 野田 晴高

11月4日

iPad を活用した授業を考えよう! ③ 上越教育大学大学院生 伊藤 創

11月4日

書写指導セミナー②「攻略 書初め指導法」 上越教育大学 荒川 圭子

11月4日

研究プロジェクト成果発表会「社会系の専門性育成セミナー①」 上越教育大学 下里 俊行

11月7日

研究プロジェクト成果発表会「多職種連携による学び合いの場創りの意義②」

上越教育大学 藤井 和子

11月11日

教師力向上セミナー21【CU】「人権教育、同和教育セミナー③」

徳島県人権エンタメ集団「友輝」中倉茂樹

11月11日

研究プロジェクト成果発表会「社会系の専門性育成セミナー②」

上越教育大学 下里 俊行

11月11日

教育サークル Sky-High ! ⑨

県立上越特別支援学校 野田 晴高

11月18日

これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑤

上越教育大学 山口 美和

長谷川 敬子

11月18日

研究プロジェクト成果発表会「社会科系の専門性育成セミナー③」

上越教育大学 下里 俊行

11月18日

研究プロジェクト成果発表会「学校実習における合理的配慮」

上越教育大学 小林 優子

11月18日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑥ 上越教育大学 大場 浩正 (WBM 認定講師)

11月18日

教師力向上セミナー22【CU】「実践道德授業 小学校対象③」

上廣道德教育アカデミー 小宮 健

11月25日

教育サークル Sky-High ! ⑩

県立上越特別支援学校 野田 晴高

11月25日

研究プロジェクト成果発表会「社会科系の専門性育成セミナー④」

上越教育大学 下里 俊行

11月30日

生徒指導を考える～荒れた中学校の実践から～

上越教育大学 佐藤 賢治

12月2日

研究プロジェクト成果発表会「21世紀を生き抜くための能力を育てる」

上越教育大学 岡田 啓吾

12月9日

教師力向上セミナー23【CU】「レジェンドに学ぶ④～生活科と書くこと～」

上越教育大学 上原 進

12月9日

小・中・特別支援学校における食育の実践と評価③

上越教育大学 野口 孝則

12月9日

教育サークル Sky-High ! ⑪

県立上越特別支援学校 野田 晴高

12月9日

研究プロジェクト成果発表会「地域課題解決を志向した小・中学校連携プログラミング教育」

上越教育大学 大森 康正

12月9日

研究プロジェクト成果発表会「教科教育カリキュラム構想のための基礎的・実践的研究」

上越教育大学 阿部 靖子

佐藤 ゆかり

12月16日

教師力向上セミナー24【CU】「実践道徳授業 中学校対象③」 上廣道徳教育アカデミー 田村 博久

12月16日

児童虐待防止に向けた学校の役割とは②

上越教育大学 高田 俊輔

12月16日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑦ 上越教育大学 大場 浩正 (WBM 認定講師)

1月6日

研究プロジェクト成果発表会「小学校英語指導」

上越教育大学 大場 浩正

1月20日

教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会⑧ 上越教育大学 大場 浩正 (WBM 認定講師)

1月20日

ネット依存の仕組みと対策

ネット健康問題啓発者全国連絡協議会

ウッド 一美

上越教育大学 土田 了輔

1月27日

研究プロジェクト成果発表会「小学生が数学の本質的な面白さを体験できる問題づくり」

上越教育大学 岩崎 浩

斎藤 敏夫

1月27日

教育サークル Sky-High ! ⑫

県立上越特別支援学校 野田 晴高

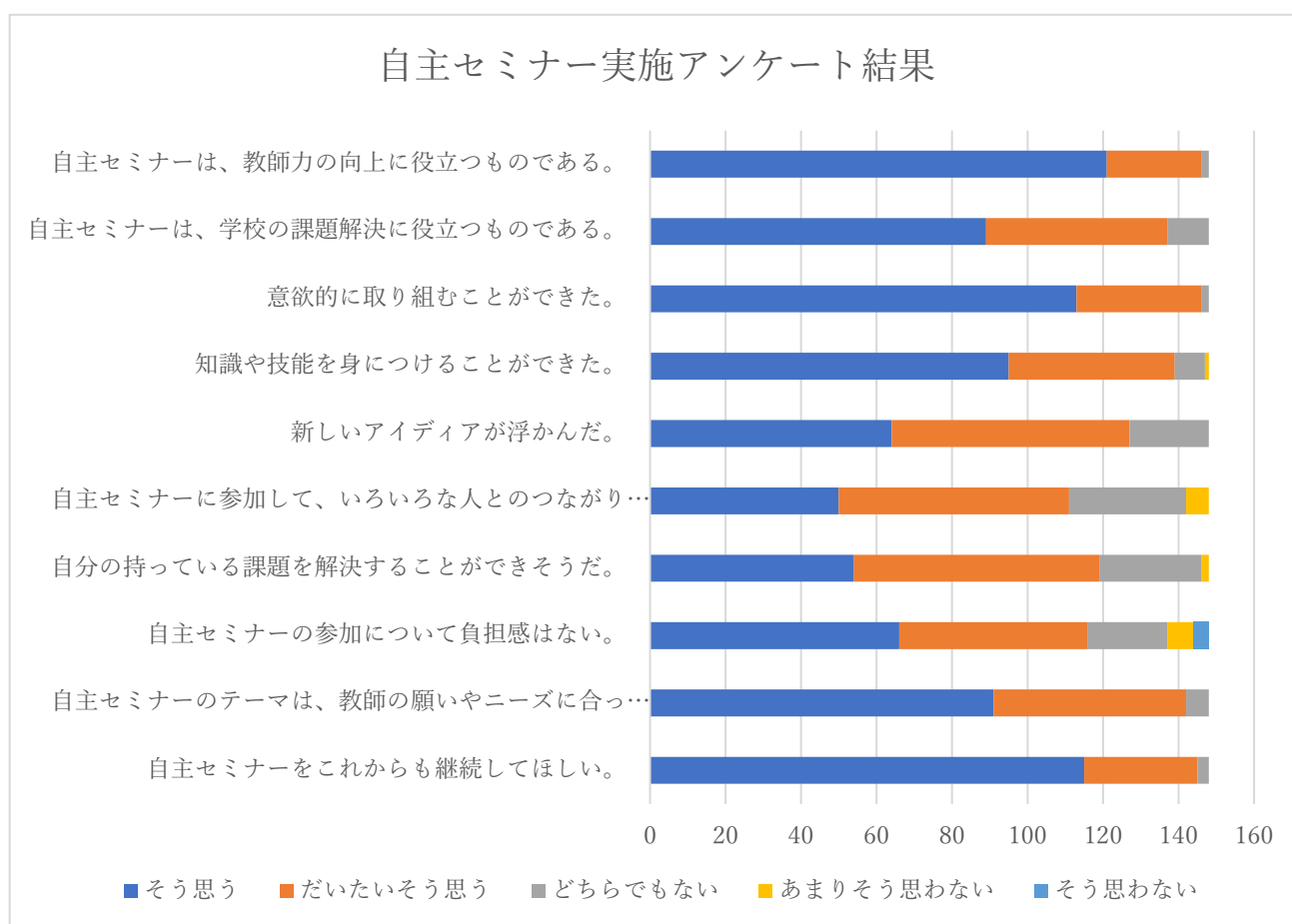
## 2. 講座数・参加者総数

セミナー名	開催講座数	参加者総数	平均参加者数
自主セミナー	68回	496名	7.3名
教師力向上セミナー	24回	395名	16.5名

## 3. アンケート結果

### (1) 自主セミナーアンケート結果

教職員のための自主セミナー（水曜セミナー）におけるアンケートの集計結果である。参加者496名のうち30%にあたる149名の回答を得た。自主セミナーはシリーズ化の内容が多く、毎回参加する会員がいるため、アンケート回収率が低い傾向にある。



### 【アンケート回答者の所属別人数】

参加者所属	小学校教職員	中学校教職員	学部生	院生ストレート	院生現職教員	その他
人数	30名	14名	4名	17名	40名	44名

### 【アンケート回答者の年代別人数】

参加者年代	20代	30代	40代	50代	その他
人数	28名	30名	51名	38名	2名

## (2) 自主セミナーアンケート自由記述のまとめ

- 小中特別支援学校における食育の研究（4回実施のうち2回オンライン）
  - ・食の大切さと給食のもつすごさを教えていただきました。
- iPadを活用した授業を考えよう！（4回実施のうちオンライン1回）
  - ・附属中での実践例を聞くことができた。実際に iPad の操作を体験出来て ICT へのハードルが下がったような気がします。
  - ・GIGA スクール導入後の活用セミナーなどがあると良いと思う。
  - ・一人に1台のタブレットが配置されたとき、どのような授業場面で使うと効果的なのか、具体的に教えてほしい。
  - ・今後も遠隔で行えるようであれば、このような授業形態があってもよいのではないかと感じました。
- With コロナ時代の学校教育(全4回オンラインで実施)
  - ・セッション、対話のための資料が適度に用意されていてよかったです。多様な参加者との交流を通して、さまざまな状況を知ることができました。上越市にとどまらず、同じ問題に関心のある方々と交流できる機会は、オンライン自主セミナーの強みであると再確認しました。
- 教育×ホワイトボード・ミーティング®気軽な勉強会（月1回程度実施）
  - ・このセミナーによって、自分自身への気づき、まさに省察によって、自分の良さや課題を確認できることが分かってよかったです。
  - ・遠隔による授業が、今後もあるとうれしいです。終了が8時30分なので、帰宅が10時を回ってしまいます…
- 教育サークル Sky—High！（7月より月2回程度実施）
  - ・今回も大変勉強になりました。アウトプットの大切さが特に印象に残りました。意識していきたいと思います。
  - ・授業の上手い先生の授業を見て、気づける力を持ちたい。自分の授業改善につながる授業が見たい。
- 毛筆書写指導(2回実施 6月・11月)
  - ・作品入れの作り方や「音」で小学校3年生にわかりやすく書き方を教えるなど、基礎的な所をわかりやすく教えていただき、自分の困り感が解消されました。
  - ・自分が疑問や課題にも感じていなかった部分にも改善の余地が多く見つかりました。
- これからの保育と幼小接続を考えるセミナー(6月より月1回程度実施 遠隔:宮古島市)
  - ・森のようちえんには「暮らし」という言葉はぴったりだと思う。5領域の視点から語っていただき環境（フィールド）が森だけという言葉に説得力があった。
  - ・遊びを通して生きる力の基礎をつくることを考え、日々の保育に取り組んでいくことの重要性を再認識した。
  - ・保育園という長時間、保育している中でいかに楽しい保育（遊び）の時間を多くとることが出来るかが課題です。
  - ・幼稚園ではシティズンシップを育てる場面はよくありますが、改めてその意味を考え直す機会となりました。

#### ○スマホ・ネットの長時間接触による健康被害の実際と対策

- ・1学期が終わる前にメディアに関する指導・周知をしたいと考えていた中だったのでとても参考になりました。
- ・データに基づいてお話が聞けたので、説得力がありよくわかりました。貴重なお話しでした。

#### ○夕暮れの自然観察講座(全4回実施)

- ・ICTの活用(ビデオの作成)も今後ますます活用する機会が増えてくると思うので非常に参考になりました。
- ・ロイロノートを初めて使わせていただきました。タブレットだと子どもたちの「感覚」を働かせて作成できる点がとてもいいことがわかりました。
- ・生物の細かい情報とともに、ロイロノートなどの情報活用の研修が出来てとてもよかったです。

#### ○教育評価の基礎・基本(全2回実施)

- ・2回しか開催されないのが物足りなく感じました。もっと学びたかったです。評価に客観性をしっかり持たせていきたい。評価項目をつくる中で、授業力を付けていきたいと思いました。
- ・単学級だと自分の評価はこれでいいのか不安になることが多いです。特に数値化できないものの不安が大きいです。

#### ○児童虐待防止に向けた学校の役割

- ・今回のセミナーでは知らなかった制度について、教えてもらい勉強になりました。生徒指導で必要な知識になるのでよかったです。
- ・学校の役割についてももう少し具体的に教えていただきたいと思いました。社会的養護について知ることが出来、勉強になりました。子どもの支援に広い視野を持って臨むことが出来そうです。子どもの権利について改めて考えてみようと思いました。

#### ○生徒指導を考える

- ・自分の興味のある内容だったので面白かった。やはり問題行動に学校としては、チームとして一律で取り組み、家庭との連携をしっかりと行うことが重要であると考えさせられた。
- ・生徒指導の実践について、本日のような内容や、先生方の経験から得られたことを傾聴したい。

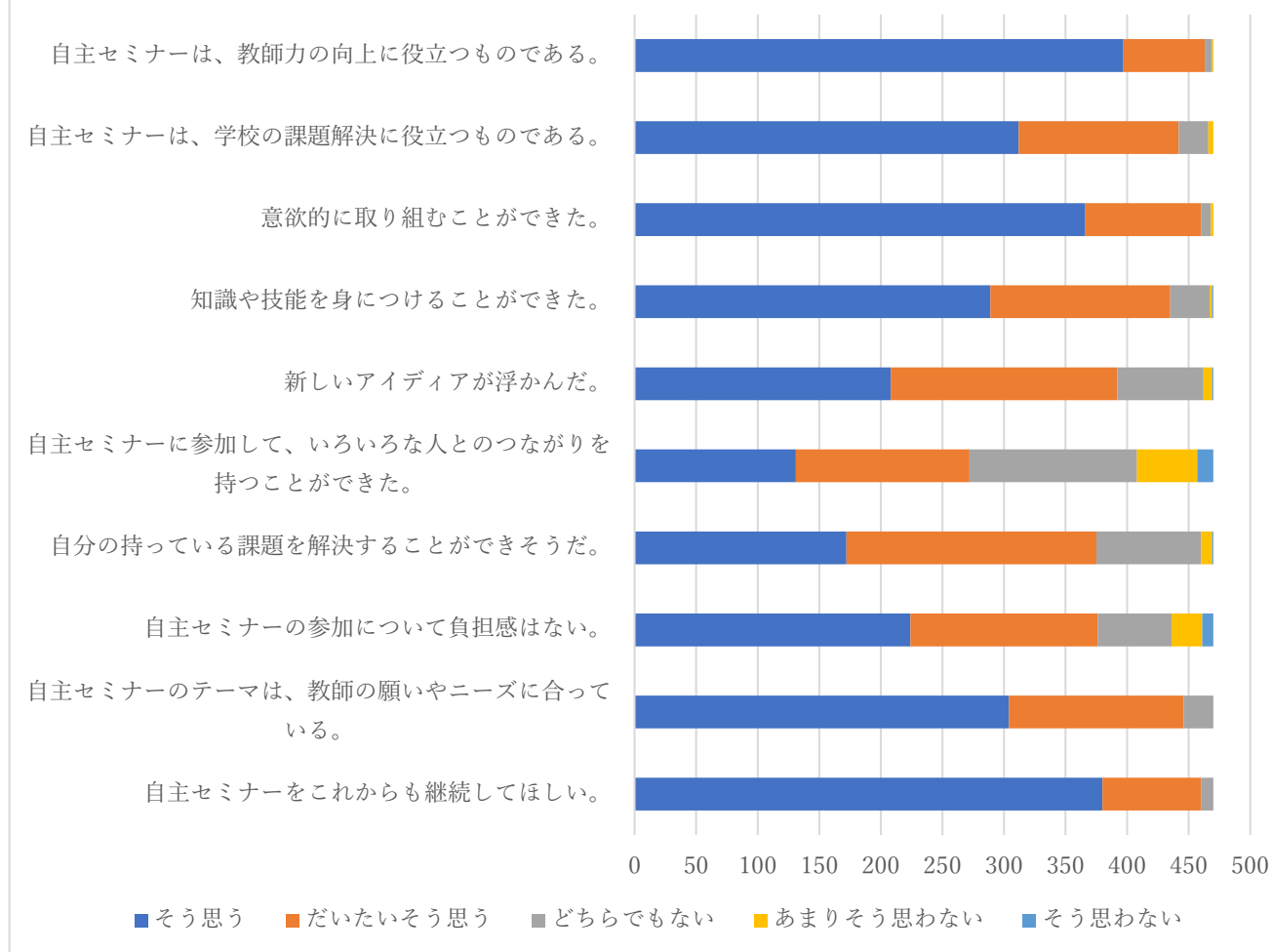
### (3) アンケート総計結果

本年度から自主セミナーと教師力向上セミナーのアンケート形式を統一した。アンケート項目の中にある「自主セミナーは」の表記は両方のセミナーを指しているものとして読み替える。アンケートを回収した自主セミナー(水曜セミナー)149名と、教師力向上セミナー321名の合計した470名の総計結果をグラフで示す。

#### 【アンケート回答率】

セミナー名	参加者総数	アンケート回答数	回答率
自主セミナー	496名	149	30.0%
教師力向上セミナー	395名	321	81.3%

## 自主セミナー・教師力向上セミナー実施アンケート結果



アンケート回答者の所属別と年代別の合計数は以下の通りである。

### 【アンケート回答者の所属別合計数】

枝種等	小学校教職員	中学校教職員	学部生	院生ストレート	院生現職教員	その他
	232名	30名	25名	55名	62名	66名

### 【アンケート回答者の年代別合計数】

年代	20代	30代	40代	50代	その他
	142名	65名	139名	119名	5名

## **4. 学校及び地域社会との連携・支援2**

### 学校評価アンケートシステム

学校評価支援アンケートを簡便に作成・実施し、分析ができる「学校評価支援アンケートシステム」を開発し、運用しています。教師に負担の多かった業務を軽減するとともに、精度の高い分析を行うことで、学校や学級の経営改善を図ることができます。また、上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市の学校であれば団体IDの申請をするとアンケートシステムの使用ができます。



## 1. 学校評価支援アンケートシステムの概要

平成 18 年度より、上越教育大学、上越市教育委員会、民間会社の産学官連携プロジェクトとして、自己評価のアンケート処理と分析を簡便に行い学校や学級の経営改善に生かせるような学校評価システムを開発し、学校支援を実施してきました。

これまでの 7 年間の研究・実践をもとに、上越教育大学で新たに開発したのが、「学校評価支援アンケートシステム」です。平成 25 年度より、学校現場、現職教員、本学教員並びに教員を目指す本学学生等が研究目的で利用することができるようになりました。学校評価アンケートだけでなく、様々なアンケート調査にも活用することが可能です。

学校評価支援アンケートシステムでは、「アンケート項目のスタイル提示」「アンケート集計」「統計解析」を行います。教師に負担の多かった業務を取り除くとともに精度の高い分析を行うことで、学校や学級の経営改善を図ることができます。

### ○ アンケートの作成

Web ページにアンケート項目などを入力して、マークシート形式のアンケートを作成し、PDF ファイルに出力します。

### ○ アンケートの読取

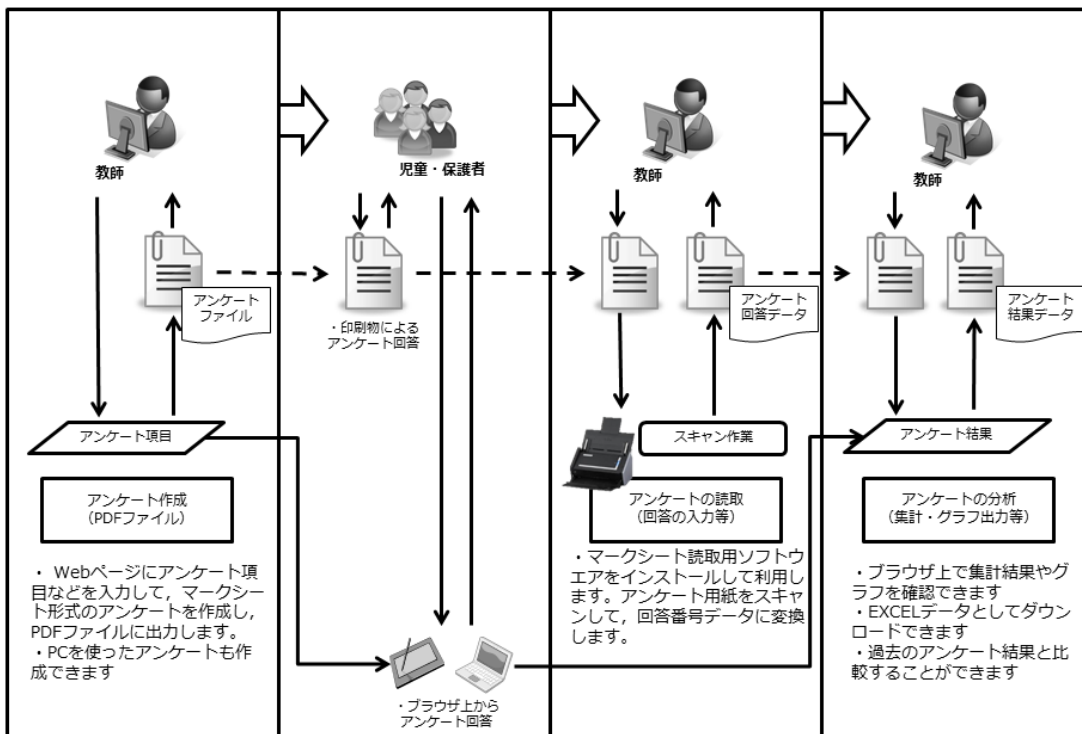
マークシート読取用ソフトウェアをインストールして利用します。アンケート用紙をスキャンして、回答番号データに変換します。

### ○ アンケートの分析

ブラウザ上で集計結果やグラフを確認できます。EXCEL データとしてダウンロードできます。過去のアンケート結果と比較することができます。

学校評価支援アンケートシステムの概要図

上越教育大学 学校教育実践研究センター



## 2. 学校評価アンケートの実施

上越市内小中学校 21 校，妙高市立小中学校 7 校，糸魚川市内小中学校 4 校，柏崎市内小中学校 10 校の全 42 校，2 つの市教育センターが学校評価支援アンケートシステムの利用登録を行った。

■上越市	■妙高市
上越市立南本町小学校	妙高市立新井小学校
上越市立黒田小学校	妙高市立新井南小学校
上越市立飯小学校	妙高市立新井北小学校
上越市立稲田小学校	妙高市立新井中央小学校
上越市立大和小学校	妙高市立妙高高原北小学校
上越市立春日小学校	妙高市立妙高高原南小学校
上越市立高志小学校	妙高市立新井中学校
上越市立戸野目小学校	■糸魚川市
上越市立大町小学校	糸魚川市立田沢小学校
上越市立八千浦小学校	糸魚川市立糸魚川東中学校
上越市立直江津小学校	糸魚川市立糸魚川中学校
上越市立直江津南小学校	糸魚川市立青海中学校
上越市立春日新田小学校	■柏崎市
上越市立国府小学校	柏崎市立柏崎小学校
上越市立谷浜小学校	柏崎市立比角小学校
上越市立牧小学校	柏崎市立枇杷島小学校
上越市立大潟町小学校	柏崎市立剣野小学校
上越市立南川小学校	柏崎市立榎原小学校
上越市立上杉小学校	柏崎市立新道小学校
上越市立附属小学校	柏崎市立田尻小学校
上越市立城西中学校	柏崎市立北条小学校
上越市立教育センター	柏崎市立第二中学校
	柏崎市立瑞穂中学校
	柏崎市立教育センター

おわりに

すべてのことが昨年通りにはいかない令和2年度であった。世界中がコロナ禍の中でこれまで経験したことのない日々を過ごさねばならなかった。学校教育実践研究センターは、そのような中で組織改編2年目を迎え、業務実施の主たる従事者である特任准教授四人のうち三人が入れ替わり時期と重なり、まったく先の見えないまま緊急事態宣言下でスタートすることになった。

今何をすればいいのか、何を優先しなければならないのか、相談することもままならず、オンラインで一つ一つ確認しながら、新生のリメディアルから教育実地研究やボランティア関連事業を進めていかねばならなかった。学生たちもとまどいがあるだろうが、教員の側もそれ以上に苦しむ日々であった。前期授業はオンラインが基本になり、教材作成や動画作成に追われた。ようやく学生と顔をあわせられるようになった後期もコロナの第二波や市内教育機関爆破予告メールで翻弄された。9月から同時スタートとなった教育実地研究IIIとIVは、実施方法が毎週のように揺れて、その都度関係機関との連絡調整に追われることになった。自主セミナーも万全の準備の中で8月から本格的に実施に踏み切り、これまで築いてきた地域連携の火を絶やさずに済んだ。

かつてこれほどの困難な状況での業務遂行はなかった。自画自賛は慎むべきかもしれない。しかし、あえてここに記しておきたい。本年度、センター長のもとにすべての教員・職員が最善を尽くした。

2021年3月  
特任教授 石野正彦

## センター関係教員

土田了輔（代表）

中野博幸

清水雅之

渡辺径子

荒木良則

谷内卓生

島津弘次

杉谷 明

石野正彦

荒川圭子

神村大輔

長谷川敬子

森 一夫

大野雅人

小林晃彦

---

令和2年度

上越教育大学学校教育実践研究センター一年次報告書

令和3年3月

発行 国立大学法人上越教育大学学校教育実践研究センター  
新潟県上越市西城町1丁目7-2

---